

九鬼隆一 （よき） 美術行政家。嘉永二年八月七日攝津國生れ、（よき） 昭和六年八月十八日歿（一八五〇—一九三三）。二田藩士星崎貞幹の次男、丹波國綾部藩家老九鬼隆周の養嗣子となり、慶應二年家督を継ぐ。舊名星崎貞四郎。號成海。慶應義塾に入り洋學を修め、またフルベッキ、川本幸民の師事した。明治五年大學南校監事、次で文部省出任。翌年歐米視察後、文部大丞、太政官大書記官に累進。十一年パリ萬國博覽會出向十七年特命全權公使としてアメリカに駐劄。歸朝後、二十一年宮内省圖書頭、第三回内國勸業博覽會では審査長官、また臨時全國寶物取調委員長として京攝各地の寶物調査に従事。爾後貴族院議員、樞密院周官、二十九年男爵、更に帝室博物館初代總長、古社寺保存會會長、日本美術協會會頭を歴任。平素達磨を好んでその研究に移り、一方法施の淨業として達磨圖一萬枚の揮毫を發願、成就ののうち更に一萬枚揮毫の本願を立てるも、その中途で歿した。哲學者九鬼周造はその四男。

著書、「九鬼君演述之大意」（明治二十一年八月京都商工會議所）、

『茶徳談片』（明治二十八年一月、無刊記）、『九鬼男爵日本美術論』

（明治四十一年九月九日大阪・橋高乙一刊）、『乃木大將の感化』（大

正元年十一月二十回日大島唱治編刊）、『九鬼男爵美術講演概史』（大

正十一年九月序、無刊記）、『達磨心論』（昭和四年六月、無刊記）

等。森鷗外、「矢野文雄氏と九鬼隆一氏の美術論」、小寺謙吉著『成

海九鬼先生達磨圖』（昭和七年九月十六日小寺謙吉刊）がある。

